

第 25 回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA 最終審査(ホール審査) 総評 中学生部門

●審査員 A

多くの方が非常に難しいエチュードを大変良く弾いていらして感心致しましたが、テクニックに気をとられすぎ、速すぎる演奏も散見されました。

テクニックはあくまでも表現の手段ということを忘れないようにして下さい。

中には非常に感性豊かに自分の表現をしている方もあり好感が持てましたが、時にルバートが極端になりすぎ、拍感、リズム感が失われてしまうケースもありましたので注意して下さい。

●審査員 B

コンクール審査で来日するとき、いつもこの部門を最も楽しみにしています。若いピアニストの水準はとりわけ高く、今回もそれは変わらなかったです。まだ皆さんお若いのに、既にしっかりした指や大変優れた技術を持っていて、ただただ感心させられます！この時期はピアニストとしてだけでなく、成長全般において最もダイナミックな時期でしょう。これから、ますます成熟した解釈を構築することで、あなたの大きな可能性を最大限に活かしていきましょう。

以下、いくつかアドバイスです。

1.目の前にある課題は以前より難しくなり、より多くの時間を要します。辛抱強く着実に取り組んでください。日々、目を見張るような成果を求めてもそれは不可能です。I.J.パデレフスキは芸術における真の成果は、継続的な努力によってのみ得られると言いました。

2.速いテンポを乱用しすぎないようにしましょう。速く弾けることは素晴らしいですが、それが最終目標ではないはずです。より重要なことは、明瞭さ、アーティキュレーションの正確さ、作曲家の意図を表現することです。日頃からペダルを使わずにゆっくりの練習を心がけましょう。

3.あなたのピアノの技術は、多くの場合、師事している先生の演奏を超え上達し始める時期です。これはごく普通のことで、そうあるべきことなのです！あなたはまだ若いので、手先が器用です。例えば、エチュードの弾き方を教授が正確に示してくれるとは期待しないでください。あなた自身の力で解決する時期に来ていて、それができるようになることは早ければ早いほどよいでしょう！

4.ヨハネス・ブラームスは、よいピアニストになるためには、少なくとも練習とおなじくらい音楽に関する本を読む必要がある、とよく言っていました。(ピアニストに限らず)優れたアーティストの演奏を聴き、音楽についての本を沢山読み、音楽史や和声について学びましょう。そうすることで、最適な成長を遂げることができるでしょう。がんばってください！

●審査員 C

参加者の皆さん、先生そして親御さんお疲れさまでした。皆さんが力を合わせてアジア大会まで進まれたことと思います。

レベルは総じて高く、素晴らしい演奏が沢山ありました。

今後、以下について更に気をつけてみてください。

- ・楽譜に沿って音楽表現を深める
 - ・ピアノのテクニック、音楽性、知性の更なる上達
 - ・音楽表現に合わせてテンポを調整する
 - ・速い曲であっても、常にフレージングに合わせたブレスを心がける
 - ・論理的な形式の構築
 - ・音の質と多様性
 - ・音量の幅を広げる
 - ・ペダリング
 - ・フィンガー・アーティキュレーションの正確さ
 - ・特にカンティレナにおけるレガートのアーティキュレーション
- これからもがんばってください、成功を祈っています！

●審査員 D

たくさんの才能を聴くことができました。

ショパンはやはり素晴らしい！

15才前後の部門ですので、素晴らしいところとこれからの課題が両方ある参加者が多くいるのは当然でしょう。

傾向としては、エチュードが良く弾けていても、曲（キャラクターピース）になると、まだ内容に精神面がおいついていないことが多くみられました。

参加者のみなさまの今後に大いに期待しております。

●審査員 E

皆さん中学生とは思えない大人の演奏を聴かせてくださり、審査員の一人として、大きな感激と喜びをいただきました。

新しく譜読みをする際に曲の作曲された時代背景、文化等を興味を持って調べてください。調性に合った音、タッチを身につけて、更に深い味わいのある演奏を目指してください。